

マクロ経済のモデル分析を行うときに、よく「2時点モデル」というものを使う。現在と将来の違いを意識することが必要だという意味である。「アベノミクス」と名前がついた安倍晋三内閣のマクロ経済政策のスタンスも、この2時点モデルで考えると本質が見えてくる。

日本経済が低迷している最大の要因はデフレマインドが定着しているからである。「近い将来には景気はよくなるだろう」「物価や賃金も下落を続ける」……。そう考えるので、消費者も企業も消費や投資に対して慎重になる。だから景気も良くなるらない。マク



伊藤元重の

ニュースな見方

ロ経済において人々の予想が重要であると経済学の教科書には書かれているが、日本のデフレマインドの定着などはその典型である。こうした状況を打破するために、人々のデフレマインドを壊さなくてはならない。金融政策に何が求められるのか？

ここで重要になるのは、今日の金融を緩めるといっただけでなく、将来の金融も緩和されるといつ確信を人々にももたせらうことである。現在の金を融を緩和することは需要を

喚起することにつながるかもしれない。それが現実の物価を引き上げていき、デフレマインドを崩すことができる。

現在・将来、両面性こそ

ただ、デフレマインドにどっぷりとつかっている状況では、デフレが続く限り、金融政策に何が求められるのか？

ここで重要になるのは、今日の金融を緩めるといっただけでなく、将来の金融も緩和されるといつ確信を人々にももたせらうことである。現在の金を融を緩和することは需要を

政策を動かしていくことの意味である。インフレ・ターゲットと、将来の金融政策のあり方について日本銀行がコメントメントをすることに他ならない。日本銀行に求められているのは、まずは大丈夫なのだろうか。財政運営を誤ると、金利上昇が起き、経済に

以上を整理すると、金融については現在と将来の両方で緩和を、財政については、現在は緩和、将来は健全化を進めるといっことに

アベノミクスの本質

の金融緩和だけでなく、目標とする物価上昇率にたどり着くまで金融緩和を続けるといっ将来に向けての約束なのである。さて、財政政策はどのような

当面は積極財政で景気を刺激する。しかし、その財政支出規模は、長期的な財

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。

(東大大学院
経済学研究科教授)